

二〇二四年度

適性検査型 第一回 入学試験問題

適性検査Ⅰ（五十分）（全五ページ）

〈注意〉

- 一. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子・解答用紙を開けてはいけません。
- 二. 解答用紙は二枚です。試験開始の指示と同時に、二枚の解答用紙に受験番号と氏名をそれぞれ書きなさい。
- 三. 試験開始後、問題冊子がそろっていない、印刷がはつきりしないなどの不備があったら、手をあげて試験監督に知らせなさい。
- 四. 解答はすべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 五. 記述問題で字数制限がある場合は、句読点など記号も一字として数えなさい。
- 六. 問題文は上下二段になっています。

問題は次のページからです。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

(*印のついている言葉には本文のあとに「注」があります。)

文部科学省に勤める知り合いから、意外な話を聞きました。国の留学支援事業が、あまりうまくいっていないのです。「返済不要、数百万支給」というかなりの好条件を提示したので、大学生の応募が殺到すると思っていたのに、定員割れになっているとのことでした。

世界の多様な価値観を理解し、地球規模でものを考えられなければ、持続可能な社会を担っていくのは難しいと言われる時代ですが、「学生たちが留学したくない」という話は、大学の先生からもよく耳にします。もちろん、経済的な理由で行きたくても行けないという学生もいます。しかし「わざわざ海外に行かなくても、その気になれば国内でも外国人の留学生と触れ合えるから、それで十分」と考えている学生も少なくないようです。

確かに数十年前と比べれば、日本に来る外国人留学生の数はずいぶん増えました。日本を訪れる観光客も増加しており、町中で外国人の姿を見るのも珍しくなくなりました。観光地でない場所でも、こちらの語学力にお構いなく英語で話しかけられることもしばしばです。外国人と交流するという側面だけ捉えれば、接触の機会は間違いなく増えています。国内にいながらにして、*コストパフォーマンスよく視野を広げられるようになったのですから、とても恵まれた時代には違いありません。

しかし、①*ホームグラウンドである日本国内で外国人に会うのと、海外で出

会うのは同じことなのでしようか。私には留学経験がなく、たまに海外出張や旅行に行く程度なので、偉そうなことは言えませんが、生活習慣でも食べ物でも、海外では過去の自分の経験が役に立たない場面にたびたび遭遇します。国内の大学で、外国人と話をする機会に恵まれたとしても、学校の外に一歩足を踏み出せばそこは日本です。人にもものを尋ねたり、積極的に人と関わったりしなくても、生活に困ることはありません。

ただ、私たちを取り巻くこの便利さが、挑戦する気持ちや他者と関わる意欲を衰退させている可能性はないでしょうか。当たり前に存在する身の周りの環境に自覚的になってみると、新しい気づきがあるかもしれません。

なにも世界を股にかけて活躍する「*グローバル人材」を目指さなくてもいいんです。目的がはっきりしないまま海外に飛び出しても、多様で異質なものとのお出会いは待っています。大切なのはその時に何を感じ、何を学び取るかです。自らつかみ取らなければ、機会は訪れません。取材で知り合った保育園の園長さんの留学体験には、若い人にぜひ聞いてもらいたいエッセンスが詰まっていたので、ご紹介したいと思います。

「*梓が一つ余っているから行って見ない?」。佐賀市で保育園の園長をしている吉村直記さんは、佐賀県立高校の二年生の時、地元*ロータリークラブの知り合いから交換留学の誘いを受けました。その時は深く考えもせず、えいやで手を挙げてしまったそうです。行き先は米国国境に近いメキシコのティファナという町でした。空気は乾燥していて、車が通るたびに土ぼこりが巻き上がります。道路の両脇には*タコスの屋台が立ち並び、車が信号待ちをしてい

ると、*ストリートチルドレンが群がってきて、窓拭きをしては小銭を稼いでいました。

現地に到着すると、*ホストファミリーの母親から「あなたは私の息子の代わりだから、同じように家での役割を果たしてもらおうよ」と厳しく言われました。庭の掃除や炊事、洗濯が自分の仕事になりました。英語は多少できましたが、家での会話はスペイン語が基本です。ひたすら辞書を開き、単語を覚える日々が続きました。初めの二、三か月は学校の友達ともうまく意思疎通ができず、家と現地の高校を往復するだけでした。せっかく留学したのに、来る日も来る日も勉強漬けの毎日。でも、そのおかげで言葉は少しずつ分かるようになりました。話ができるようになると、友人の数も自然に増えていきました。

一か月かけてメキシコ全土を回るバスツアーがあり、一人のブラジル人留学生と仲よくなりました。年は一歳下でしたが、細やかな気配りができる日本人的なところがあり、意気投合するようになりました。バスでは毎日隣の席に座って「将来は医者になりたいと思ってる」「自分は学校の先生を考えている」と、夢を語り合いました。

ある時、彼に「日本人は消極的だと思っていたけど、君は積極的で思い描いていた日本人像とは違う」と言われました。そういう彼自身も「ラテン系で陽気なブラジル人」というイメージとはずいぶん違って、冷静で思慮深い人物でした。彼と出会ったおかげで、どこの国の留学生と出会っても、国籍で相手を決めつけるような紋切り型の先入観を持つことはなくなりました。

留学の最後に一年間の成果を報告する会がありました。現地のロータリーク

ラブの会長に彼と二人だけ呼ばれ、「もし日本とブラジルの関係が険悪になったらしたら、直記はブラジルと戦争がしたいか」と尋ねられました。もちろん、戦争など嫌に決まっていますが、重ねて理由を問われました。「それはどうしてなのか」と。その時、自然に出てきたのは「彼がいるから」という言葉でした。友人の答えもまったく同じでした。

それまでは「語学留学だから、語学だけ身につければよい」と漠然と考えていましたが、会長が求めているのは別のことでした。「相手のことを知っているから、その出身国についても思い描くことができる。戦争しないという具体的な行動にもつなげられる。それこそが交換留学をする真の意味なんだ」という教えを胸に刻みました。

現地で伸ばしたひげはそのままにして帰国すると、復学した高校では服装検査が待っていました。教員が女子生徒のスカート丈を一センチ単位で測って指導する様子にあぜんとしていたら、自分も「すぐにひげを剃るように」と注意されました。一人一人の違いを大切に作るメキシコの教育とは正反対のことが、目の前で行われていました。

現地の高校にも制服はありませんでしたが、生徒は好きなマークを縫い付けたり、着崩したりして、ごく自然に個性をアピールしていました。「なぜ、違いを違いとして認められないのだろう」。なんとも言えない居心地の悪さに襲われました。②留学するまで気にとめることのなかった日常は、もはや自分にとって「当たり前」ではなくなっていたのです。

(名古屋隆彦「質問する、問い返す 主体的に学ぶということ」による)

〔注〕

コストパフォーマンス——商品の価格に対する生産性、機能などの高さ。

ホームグラウンド——慣れていて十分に活躍できる場所や分野。

グローバル人材——国際社会の中で、言語・文化・価値観の異なる多様な人々と意思・感情・思考を伝達

しあい、主体的に課題を解決していくことが出来る人。

ロータリークラブ——国際親善と社会奉仕^{ほうし}とを目的とする国際的な社交団体。

タコス——メキシコ料理の一つ。

ストリートチルドレン——家がなく、街頭で物売りや物乞い^{いせむ}をして、その日暮らしの生活をしている子どもたち。

ホストファミリー——ホームステイの留学生を受け入れ、世話をする家庭。

思慮深い——物事を注意深く、十分に考えるさま。

【問題1】

①ホームグラウンドである日本国内で外国人に会うのと、海外で出会うのは同じことなのでしょう。とありますが、この問いに対する筆者の考えは、本文からどのように読み取れますか。その理由とともに百四十文字以上百五十文字以内で答えなさい。

【問題2】

②留学するまで気にとめることのなかった日常は、もはや自分にとって「当たり前」ではなくなっていたのです。とありますが、それはどのようなことですか。「留学するまで気にとめることのなかった日常」の内容を明らかにして百文字以上百二十文字以内で説明しなさい。

【問題3】

あなたは将来、海外に留学したいと思いませんか。本文をふまえて、あなたの考えを、三百文字以上四百文字以内で書きなさい。ただし、あとの「手順」と「きまり」にしたがうこと。

〔手順〕

1 日本の若者はもっと海外に留学した方がよいかどうかについて、自分の考えを書く。

2 1で書いたように考える理由を本文をふまえて説明する。

3 あなた自身が、将来、海外に留学したいかどうかを、その理由を具体的に説明して書く。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ 〃や。や。なども、それぞれ字数に数えます。〃や。が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます。(ますめの下に書いてもかまいません。)

○ 。と。が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、。で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。